

STOP



汚染水 海洋放出

緑の党
フリンズジャパン

We are Global Greens

これ以上海を汚すな！

緑の党は海の日アクション 2023 に連帯します

■原発事故処理汚染水の海洋放出迫る

2011年の福島原発事故は、人々の暮らし、地域社会、そして環境に今なお深刻な影響を及ぼし続けています。

政府と東京電力は、溶融した核燃料に触れた汚染水を「ALPS(多核種除去設備)処理」し、希釈した上で海洋放出を進めようとしています。政府は「処理水に含まれるトリチウム濃度は基準値以下で、海外でも放出している」と強弁していますが、ALPS 処理ではトリチウム以外の放射性核種も取り除けていないことも判明しており、海外で燃料デブリに直接触れた水を放出している例はありません。また、処理作業を実際に担うのは、原発事故を起こした当事者である東京電力であり、しかも東電はこの間数々の不祥事を重ねてきました。東電に安全を委ねることができないのは、火を見るより明らかです。

政府は福島県漁連・全漁連に対し「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束したにもかかわらず、この夏にも放出を強行しようとしています。この計画には福島県内の多くの自治体や議会が反対もしくは強い懸念を示し、漁連は全国組織を挙げて反対の意思を明確にしています。海外でも反対の声が高まっています。6月8日～11日に行なわれたグローバル・グリーンズ大会(緑の党の世界大会、於韓国)でも、処理汚染水の海洋放出に反対する決議が採択されました。

7月17日にはいわき市で大きな反対行動が予定されており、私たちは各地でこの行動に連帯して声を上げます。ふるさとの海、日本の海、世界の海を放射能でこれ以上汚してはなりません。

■ただちに原発から撤退を

汚染水の問題は、原発事故が起きた際の被害の深刻さとその長期化・広域化を象徴しています。原発事故から12年以上が経ち、ふるさとを離れて避難した人々や被害を受けた人々の苦悩や孤立は深刻化しています。この事故を解決できないまま、政府は気候変動対策やウクライナ情勢を理由に原発を強引に推進し、そのためのGX 原発法が先般の国会で成立してしまいました。原発

は、被害を切り捨て、汚染を矮小化することでしか進められないことが明確になっています。ただちに原発から撤退し、全ての被害に向き合い、その回復に向けた支援策を再構築すべきです。

私たちは、世界中の仲間と連帯し、原発のない未来に向けて声を上げ、行動を続けます。

<海の日アクション 2023 汚染水を海に流すな！～海といのちを守るパレード～>

7/17(月・休)13:20～15:30 @福島県いわき市小名浜アクアマリンパーク

主催:これ以上海を汚すな! 市民会議、さようなら原発1000万人アクション実行委員会

福島第一原子力発電所から太平洋への 処理汚染水放出の計画の中止を求めます

2023年6月8~11日、世界84カ国の緑の党が集まった第5回グローバル・グリーンズ世界大会 in 韓国にて、放射性廃棄物について決議を採択しました。それに基づいて私たちは、放射性処理水を福島第一原子力発電所から太平洋に放出する計画について下記を求めます。

1

日本の市民、太平洋地域および環太平洋地域の人々の健康、そして太平洋の環境と生物多様性を守るために、約133万トンの処理汚染水を福島第一原子力発電所から太平洋に流す計画の即時中止を求める。

2

放射性物質の総量の情報開示を要求する。トリチウムの推計量だけでなく、東京電力が「二次処理して希釈し、基準以下にする」と説明しているトリチウム以外の放射性物質について、種類と総量の説明を求める。

3

海洋放出は中止し、処理汚染水を継続的に陸上保管することを求める。そのために、「免震大型タンク貯留案」、「モルタル固化処分案」など実績ある方法の検討を求める。

4

放射性廃棄物やその他の放射性物質の太平洋への投棄の禁止を求める国際条約を尊重するよう求める。

以上

